

南昌だより

2020
No. **41**
2020年8月1日発行



医療法人社団 帰厚堂

【基本理念】

「愛と誠の精神」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される医療を提供するために
全ての専門職種による
チーム医療に万全を期します

社会福祉法人 敬愛会

【基本理念】

「地域と共に生き 地域と共に歩む」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される福祉サービスを提供するために
全ての専門職種による
チームケアに万全を期し
その人らしい生活が育まれるよう
支援します

2020
No. **41**
Contents

- 2P…… 巻頭言
- 4P…… スタッフ紹介
- 5P～6P …… リハビリテーション その11
- 6P…… 職場紹介

- 7P～9P …… ケアセンター南昌
- 10P…… 志和荘
- 11P…… 悠和荘
- 12P…… 恒和荘
- 13P…… 若園荘
- 14P…… 敬愛荘
- 15P…… 南昌病院
- 16P…… 診療案内



医療法人社団 帰厚堂
<http://www.kikodo.or.jp/>

社会福祉法人 敬愛会
<http://www.shiwasou.jp/>



所長あいさつ

こずかた診療所 所長 杉山 賢明

こんにちは。杉山賢明(ケンミョウ)と申します。この度は木村理事長をはじめ多くの方々のお導きにより、2020年2月から、こずかた診療所所長に着任しております。

私は東北大学医学部卒業後、沖縄県浦添総合病院にて5年間、内科・呼吸器内科・救急・麻酔を研修し、総合内科専門医です。医学的あるいは社会的な困難を抱える患者さんはどんな方でもまずは診て、必要とあれば専門医や地域の人材に適切につなぐことを信条・役割としています。実際に、研修医時代には、自分の専門外だからと言って救急患者を断ったことはありません。また、医療は患者さんの生活を支えるための一ツールでしかなく、生活まわりの環境整備や社会保障サービスが必要な場面は多々あることは、研修医時代に憩いの場としてきた病院の地域連携室で学びました。これからもこの紫波郡で、地域包括ケアシステム体制の構築や多職種連携の一助になることができれば幸いです。

沖縄ではずっと病院詰めの生活でしたが、東北地方に戻ってきてからは、宮城県内の田舎や離島にて病院の外來診療や在宅医療に従事していました。そうして患者さんを診察していると、患者さんからこれまでの人生や地域の歴史を聞き、実際に地域めぐりすることが好きなのだと自覚しました。いまもこのスタイルを貫いています。

個人を診るだけでなく、私は集団を診る研究者でもあります。前職は東北大学大学院歯学研究科の助教で公衆衛生のデータ分析研究をしていました。例えば対象者3-4万人のいわゆるビッグデータを用いて、コーヒーを飲む人ほど死亡や認知症リスクが下がることを示しました。他には、他の家族と別居している離島高齢者の方が、同居している者よりも、実はAdvance Care Planning(いわゆる「人生会議」)する割合が高いなどを明らかにしてきました。東日本大震災で被災された方々において、相談相手のいる方ほど、こころの健康を保っていることも示しました。このように様々な研究を行っていましたが仙台という都市部に住むことに閉塞感を覚えていました。ちょうどその頃、現在の同僚である坪谷内科医長が先に紫波町に移住して楽しそうに、紫波町に遊びに来たところ、私の生まれ故郷のアメリカのカントリー風景を思い出し心惹かれたことから、2019年10月に仙台からの移住を決意しました。移住して1年弱ですが、この決断は良かったと感じています。なぜなら、新しく増えた知り合いの優しさに触れる度に、地域の自然や歴史に触れる度に、自分は地域に生かされているという特別な感覚に包まれるからです。このような気持ちから、自分も仕事を通じて地元へ貢献したいという思いにつながり、現職に至りました。医師としても紫波町民・岩手県民としてもまだまだ経験の浅い若輩者ではありますが、よりよい紫波郡の地域包括ケアに貢献できればと思っておりますので、皆様からのご指導を賜れますと幸いです。

以下に、私が着任してから半年の間、診療所で取り組んでいることを紹介しています。

①訪問診療の拡充

これまでは主には介護施設への訪問診療でしたが、看取りも含めた患者さんのご自宅に直接何う24時間365日体制の訪問診療を拡充しています。これまで、南昌病院はもちろんのこと近隣の医療機関などから沢山の紹介を頂いています。患者さんのこれからの自宅療養をお手伝いできることを喜びに思います。我々が訪問診療への移行期において最も大事にしたいことは、患者さん本人やご家族が今後どのように生活することをご希望なさっているのかを傾聴し、時には気づきを促し、その人らしい生活を送れるように支援することです。着任してまだ半年ですが、これまでの間に、新規でご紹介いただいたがん末期の方で、ご自宅で家族に囲まれて幸せな看取りに至った方もおられました。我々は看取りも行いますが、訪問診療の「卒業」も行っております。その方は、訪問診療開始時は確かに通院が困難で訪問診療が必要な状況であると思いました。我々が訪問診療に入り、ご自宅での生活でのアドバイスをし、また訪問看護・リハビリなどとチームをつくりADL向上を目指しました。その結果、その方は歩行ができるようになり、ご紹介いただいた開業医の先生にお戻りするという訪問診療「卒業」となりました。我々は訪問診療を行います。総合内科医として、患者さんの話を聞き、生活上のアドバイスをし、看護やリハビリなど多職種と連携して、その人にとっての最良のケアを提供することを目指しています。それが自宅の看取りであることもあれば、訪問の卒業ということもあると思います。訪問診療にご関心のある方は当院のHPや下のQRコードをご覧ください。



②電子カルテの導入及び業務の情報通信技術(ICT)化の推進

複数医師体制・24時間対応の訪問診療・チーム医療を拡充するにあたって、情報の一元管理・タイムリーな情報共有とは欠かせません、つまりクラウド型電子カルテとなります。着任前より電子カルテ導入を本部事務方と議論し、2020年4月より電子カルテを導入しました。これまで診療所が保管してきた紙ベースの患者情報を、医師2名の手作業で電子カルテにほぼ全て集約しました。これにより、医師が代っても、患者さん本人に安心して医療を継続して利用して頂けると信じています。加えて、この電子カルテ情報は当院と連携している事業所と共有できるので、様々な職種の目線から、より細やかなケアを提供できます。南昌病院と当診療所の連携を進めるために、南昌病院でこちらの診療所のカルテを閲覧できるようにしました。これは病院医療福祉相談室 MSW吉田氏と進めています。訪問診療を受けている方が南昌病院に緊急入院になった場合、病院か

ら、これまでのカルテや過去の採血結果を直ちに閲覧することができます。

ケアセンター南昌内の各事業所の業務もICT化を推進しています。タブレット機能を用いると、文字情報では知り得なかった情報に簡単にアクセスできるので、ケアに関する議論も深まり、患者さんに利益をもたらします(写真は、訪問リハビリテーションこずかたの理学療法士が利用者のリハビリ状況を動画を用いて他のリハビリスタッフと相談している風景)。博愛荘(老健)に入所している方の情報も電子カルテに記載することで、診療所とのやり取りがスムーズになっています(写真は吉岡センター長と坪谷内科医長が、電子カルテ情報をみながら博愛荘利用者の診療について活発に議論している風景)。敬寿荘(グループホーム)の方の診察前には、患者さんを日々見ている敬寿荘のスタッフより状態の事前情報および処方変更希望などをLINEで事前に送ってもらうことで、診療準備ができ、より効率的・効果的な診療ができていますと感



じます。敬愛荘では、コロナで面会ができない期間は、ipadを使ったオンライン面会を実施し好評を得ました。ICTにより、特に事務作用において業務効率を図ることができ魅力的な職場環境整備になると思います。介護ニーズはこれからも増大し、スタッフの確保は重要な課題です。



③新型コロナウイルス感染拡大の中の発熱患者の対応(休日当番を含む)

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、多くの方々の生活が変わっただけでなく、様々な不安をお抱えになっていると感じます。そうしたご不安にお応えし、近隣地域に貢献すべく、当院は新型コロナウイルス感染予防対策を2020年初めの早期から講じてきました。ビルの1階部分にある当院は、ケアセンター南昌内の感染拡大を未然に守る責務を担っています。既に4月27日に休日当番を実施したところですが、今後も第2波に備えて万全を尽くして参ります。



④医療アシスタントの育成

医療現場において医療を実施するのは医師や看護師だけではありません。多様化する患者さんのニーズに応え

るためには、たとえ専門資格がなくても、それに準じた専門知識と現場スキルを有している人材が必要不可欠です。当院はそうした人材の育成に力を注ぐべく、まずはこれまで事務職にあった山口峻輔氏を岩手県初の医療アシスタントとして迎えました。医療アシスタントには主に診療録をデジタル記録して頂いています。これにより、医師が患者さんとお話しする時間が増し、患者さんやご家族にますます安心して頂けると考えます。医療アシスタントの自己研鑽のため、院内勉強会も積極的に開催しております(写真参照)。今後の医療アシスタントの成長を楽しみにしてください。



⑤こずカフェの開設

こずかた診療所にオープンスペースを作りました。仕事の息抜きに活用することはもちろん、当院が所在するケアセンター南昌は医療や介護に関する事業所がそろっているという利点を活かして、リラックスした雰囲気できれいに医師に相談できることも大切だと考えます。それこそが多職種連携の真髄だと感じます。また、ケアセンター南昌の利用者と家族、あるいは相談員が家族と面談する場所として毎日活用されています。新型コロナウイルス感染が落ち着けば、こずカフェで勉強会やピアサポートなどの会を開催したいと考えております。(写真は坪谷内科医長と各事業所のスタッフが実際に相談したり、人生会議をより楽しく行うためのツール「みんらぼカード®」に取り組んでいる風景です:「みんらぼカード」についてはこちらのQRコードをご覧ください)



⑥野菜の処方

ポリファーマシーをご存じでしょうか。複数の疾患を抱えることにより、それぞれに対して適切と考えられる薬剤が処方されると、お互いの薬剤の相互作用により、かえって体調を落としてしまうケースは少なくなく、厚生労働省も個人に対



して適切に薬剤を使用するように呼びかけているところです。当院は、長年の診療や複数医療機関の受診によって自然と増えてしまった薬を適切な形で減らすとともに、食生活から患者さんに元気になってもらおうと考え、グループホーム敬寿荘に限りませんが、野菜を「処方」しています。具体的には、野菜の需要が多いグループホームに、所長が無農薬野菜を作っている農家を紹介し、グループホームが注文する度に、所長が仕事の行き帰りに、農家から野菜を受け取りグループホームに配送して

います。おいしい野菜を食べて笑顔が広がっていると実感します。

7 こずかた保育園の嘱託医

診療所所長はケアセンター南昌2階にある保育園の嘱託医をしております。園児の医療相談を受けることはもちろん、スタッフとランチしたり、園児と仲良くなるために贈り物をし合ったり、日常から親睦を深めています。子どもたちの元気な声や笑顔で自然と診療所の我々も笑顔になり、笑顔が広がる感覚をかみしめています。



以上の通り、診療所所長に着任してからの6か月間で実施してきたことを報告しました。紙面の関係上、まだお伝えできていないこともあります。次回の坪谷内科医長からの挨拶が掲載される号に譲りたいと思います。

スタッフ紹介

〈今日から俺が?!〉—今日オレ—

「俺がですか?」…。こずかた診療所の山口峻輔と申します。実は私はスタッフ紹介2度目の登場なんです。以前はケアセンター南昌の事務員として働いておりましたが、今年からこずかた診療所の配属となり、『診療アシスタント』という職種で、再スタートとなりました!!

皆さん「診療アシスタント??」と聞きなれない職名と思いますが、それもそのはず、なんと、岩手県初の職種なんです。

こずかた診療所は、今年度より杉山診療所長、坪谷内科医長のもと、今まで以上に在宅での医療「訪問診療・往診」を充実させるためいろいろなイノベーションがはじまり、医師、看護師だけでなく医療従事者の新たな人材『診療アシスタント(以下PA(Physician Assistant:フィジシャン・アシスタント))』として誕生しました。ちなみに、PAは他県ではすでに活躍しており、TVなどにも取り上げられていますが岩手では初めてとなります。(杉山診療所長 公認)

実際にどんなことをするのかというと、

- ① 訪問診療の準備(医療セットの準備、日程調整)
- ② 訪問先への運転
- ③ 医師の指示のもとバイタルサイン(体温、血圧、血中酸素など)の測定
- ④ 診療録をデジタル記録
- ⑤ オンラインミーティングの設定
- ⑥ 薬局への処方箋のFAX



[PAの紹介/やまと診療所]

☆患者さん、家族さんの相談しやすいポジションにいる!!
 からです。

私は、医療に関して全くの素人で、薬はロ○ソ○ン(痛み止め)ぐらいしか知らず、カルテを見ても何を書いているのかわからない、薬の名前は英語に見える(カタカナでしたが)と

ころからのスタートでした。外来でのカルテを入力の実習などをし、迎えた初訪問は、血圧・体温測定のエラー表示で背中冷や汗をかき、問診のやり取りは耳から抜けていきカルテは部分的な単語のみ…。

それから4か月が経過し、今は医師とPAの二人で訪問に行くことも増え、バイタル測定も声をかけながら測定できるようになりました。

そして、訪問では色々な患者・家族の皆さんにたずさわって、楽しそうに昔のお話をしてくれる方、静かに寝ている方、長年介護をし、慣れた手つきで介護をする方。在宅での介護がはじめてのご家族等々、同じような病気だったとしても全く違う介護をみる事が出来ました。

この4か月の経験の中で、初めて看取りも立会いました。看取りの場でのカルテ入力に戸惑いながらも、できるだけ家族の方々の思いなどを書き記そうとキーボードをたたきました。それがケア振り返りカンファに役立ちました。今ではかなりの量を入力できるようになってきたと思います。

まだまだ、書きたいことは沢山ありますが、ページの関係でこのくらいで(笑)

PAは資格を持った医療従事者でなくともできる、とてもやりがいがある楽しい仕事だと思っています。そう思えるのも、医療の先輩方が指導して下さり、研修会への参加も後押ししてくれていることが大きく、感謝しています。在宅医療の醍醐味でもある「その人らしい生活」をおくるサポートができるように成長していき、PA仲間を増やせたらいいなと思います。

これからも電子カルテを体の一部にして頑張ります!!



こずかた診療所
 診療アシスタント
 山口 峻輔



正しく知っておいしく食べましょう ～摂食嚥下障害について～

厚生労働省の資料によると、70歳以上の肺炎患者のうち約70%は「誤嚥性肺炎」と報告されています。このことから分かるように特に高齢者において注意すべき症状の1つに誤嚥性肺炎があります。この誤嚥性肺炎が「摂食嚥下障害」が原因で起こり得ることをご存知でしょうか。摂食嚥下障害とは、病気や老化などによって口やのどが機能低下し、食べる・飲むことに支障をきたした状態をいいます。混同しやすい疾患として「摂食障害」がありますが、これは精神障害の一種であり拒食症や過食症などの状態をいい、摂食嚥下障害とは別の症状です。では、摂食嚥下障害とはどのようにして起こるのでしょうか。まず、私たちがどのようにして食べているのか理解を深める必要があります。

〈嚥下(えんげ)とは?〉

嚥下とは、食べ物を認識してから咀嚼して飲み込む一連の過程をいいます。漢字の「嚥」は、ツバメの子が大きく口を開けて、親鳥から餌をもらい飲み込む様子から作られたといわれています。英語では嚥下を「swallow」と言います。「swallow」は名詞では「ツバメ」、動詞では「飲み込む」として使われますので、異なる言語圏でもイメージすることは同じようです。

さて、その嚥下ですが、私たちが食べ物を目の前にしてから飲み込んで胃に入るまで、大きく分けて5つの段階に分けられます(図1)。

1. 先行期(認知期)

食食物を認識する段階。視覚、聴覚、嗅覚、触覚を用いて過去の記憶と照合し、食べ物かどうか、またどのような食べ物かを認識します。その上で、どの程度口を開けて食べるか、噛む力の調節、食べる順序、口に運ぶ量や早さなど様々な判断をしています。食欲を感じ唾液の分泌が始まります。

2. 準備期(咀嚼期)

食べ物を口に取り込む段階。噛み砕いて唇、顎、頬、歯、舌を使って唾液と混ぜ合わせ、のどを通過しやすい形状(食塊)にします。

3. 口腔期

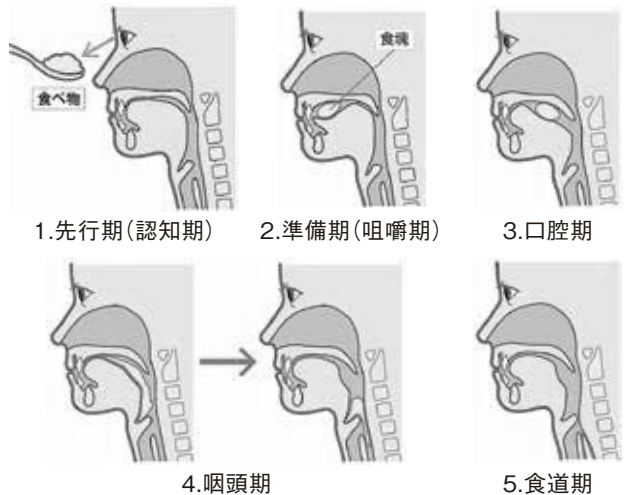
舌を使って食べ物をのどへ送り込む段階。口の上側に舌を押し当てる力が必要となります。

4. 咽頭期

のどに送られた食べ物を反射によって飲み込む段階。食べ物が鼻に入らないように鼻と口の交通を自動的に遮断し、また気管への入り口に蓋をして食べ物が気管に入り込むことを防いでいます。

5. 食道期

食べ物が食道を通過する段階。



(図1)

〈摂食嚥下障害の主な原因〉

- 脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)
- 神経・筋疾患(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症など)
- 脳性麻痺
- 舌やのどの悪性腫瘍切除等外科的手術後
- 認知症(先行期の障害)
- 老化による筋力の低下

以上のような原因が、単独もしくは複数の要因が影響し合い、先に示した「嚥下」のいずれかの時期に問題が生じた状態を「摂食嚥下障害」といいます。

〈摂食嚥下障害の症状〉

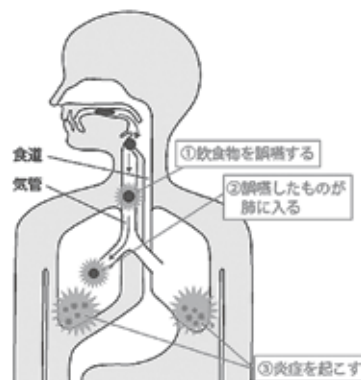
食事の際に、脳は常にどのように食べるかを判断し、食べ物の様々な感覚を得ながらどのように嚥下の運動をするのか指令を出しています。このいずれかの段階が難しくなると、食べることに支障が出てきます。例えば、1の段階では、食べ物と判断できず、食事が始められない、食欲が出ない、食事に集中できない、自分の食事のペースが分からずどんどん詰め込んでしまうなどの様子が見られます。2では、噛み砕くことができない、口からこぼれる、頬に溜まるといったことがみられ、飲み込みやすい食塊を作ることができなくなります。3では、のどに送り込むための力が低下することによって、なかなかのどに送り込めず食事に時間を要するようになります。4では、本来機能すべき自動的に気管に蓋をする遮断機構が働かず、食べ物や飲み物、唾液が気管や肺に入り肺炎を起

こす可能性があります。5では、食道の狭窄や、胃からの逆流によって飲み込んだ物がのどまで戻り、それが肺炎の原因となることがあります。

以上のような摂食嚥下障害の症状がある際に、最も注意しなければならないことが「誤嚥」です。「誤嚥」とは食べ物や飲み物、唾液などが気管に入ってしまうことであり、誤嚥が原因で起こる肺炎を「誤嚥性肺炎」といいます(図2)。本来、気管に飲食物が入っても反射によって咳が起こり吐き出すことができますが、咳が十分にできないと誤嚥性肺炎を起こしやすいとされています。普段の生活で、以下の症状がみられる場合は誤嚥性肺炎の兆候である可能性がありますので、肺炎を起こす前の段階での早期発見のためにも、医師や病院に相談することが推奨されます。

- 発熱を繰り返す
- 咳や痰が多い
- 食事中や夜中によくむせる
- 食事の後、がらがら声になる
- 水分を飲みたがらない
- 嘔まなくてよいものを好む
- 食事に時間がかかる

摂食嚥下障害の方に多くみられる問題として、嚥下機能が低下して食べる量が減り、低栄養になることで体力や筋力が低下し、さらに嚥下機能が低下するといった悪循環に陥りやすいことがあります。しかし、摂食嚥下障害の症状があることによって何



(図2)

も食べられなくなるということではありません。食べ物の硬さや大きさを変えて調理をしたり、水分にトロミをつけたりするなど、それぞれの嚥下機能に合わせた形状に調理、工夫することで、誤嚥性肺炎のリスクを減らしながら食べられる量を増やせる可能性があります。次号では、嚥下機能に対応する食事内容の紹介と、「どのような食事内容が適切か」を選択する上での考え方についてお話ししたいと思います。(文責:南昌病院 言語聴覚士 稲澤靖文)

参考資料

1)一般社団法人日本言語聴覚士協会 認定言語聴覚士講習会(摂食嚥下)資料 2)「高齢化に伴い増加する疾患への対応について」(厚生労働省資料)

職場紹介

こずかたケアプランセンター

初めまして。「こずかたケアプランセンター」です。当事業所は、これまでの「敬愛会指定居宅介護支援事業所」が名称を改めるとともに、職員も2名から5名に増員して令和2年4月1日からスタートしました。ここでは、医療法人社団帰厚堂が運営してきた「やばば指定居宅支援事業所」が廃止されたことに伴って、これまでの同事業所をご利用いただいていた方々もお迎えしています。

職員一同、今まで以上により良いサービスを提供できるよう取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、当事業所には現在、5名の介護支援専門員(以下、ケアマネジャー)が在籍しています。ケアマネジャー歴10年以上のベテランから、ケアマネジャーは未経験ながら施設の相談員や介護の実務を長年務めてきた人など、実に多彩な顔ぶれとなっています。

私たちケアマネジャーの仕事は、地域の高齢者やご家族様から依頼を受け、利用者様のご希望や心身に合った介護サービス、福祉サービス等を、効率的に利用出来るよう調整したり、ケアプラン(介護サービス計画書)を作成したりすることです。毎月、利用者様宅を訪問し

て心身の状態や、ケアプランに基づいたサービスを利用して、どのように効果があったのかなどの相談を通じて、サービスの利用継続または変更などの調整を行います。他に介護保険の申請代行や要介護認定調査、住宅改修、福祉用具、施設利用相談なども行います。

ところで、ケアマネジャーという資格は、学校での学問として履修取得できる資格ではありません。医療・福祉に関係する32種の有資格者が、その資格本来の業務を5年以上経験した後に「ケアマネジャーになる研修」を受けて初めて得られる資格で、研修を受けるためには試験に合格しなければなりません。その後「介護支援専門員実務研修」を受講して、初めてケアマネジャーとしてデビューできるのです。受験資格である職種の多さも「人の生活」を支えるためには、対象者の生活を多方面から見る必要があり、偏った職種ではなく、医療・福祉全般の資格で受験ができるようにという考えに基づいています。

当事業所にも看護師、社会福祉士、介護福祉士の有資格者がおり、主任ケアマネジャーも2名配属されています。特定事業所加算も取得し、ケースに応じてそ

れぞれの専門性や経験が総合し、個別ケース会議なども開催してケアマネジメントに取り組んでいます。

また、ケアマネジャーが抱える悩みや、ケアマネジメントの技術向上のための取り組みも日々行っております。現在は、女性のみの和やかな雰囲気の中で、日常の何気ない雑談から担当ケースの検討に繋がることも多く「誰もが、なんでも話せる環境」は、こずかたケアプランセンターの良いところでもあります。当事業所は、まだできたばかりの新事業所ですが、地域の高齢者の皆様が、一日でも長く「住み慣れた地域で、自分らしい生活」ができるよう、常に利用者の立場に立ち、いつも笑顔で元気よく支援していきます。

どうぞよろしくお願い致します。



各施設から

ケアセンター一南昌での主な取り組み(R2.3月~7月)

【佐藤フミヨ様 祝100歳】 (博愛荘)



博愛荘に入所中の佐藤フミヨ様（紫波町出身）今年100歳を迎えられました。

6月22日、ケアセンターに紫波町長が来所され、百歳のお祝い式典が開催されました。

若い頃は4人の子育てをしながら、農業でお米や少々野菜をつくり生活されていました。博愛荘設立年の平成25年から当施設を利用され、今でも自宅と施設を行き来しながら元

気に過ごされています。長生きの秘訣を聞くと「しょっぱいものを食べないこと」「何でも食べること」と話されていました。

お祝いには姪である、こずかたこども園の藤原佑子元園長もお祝いに駆けつけ、和やかな雰囲気の中での開催となりました。穏やかな性格で笑顔の素敵な佐藤フミヨ様、これからも元気で笑顔の絶えない日々を過ごしていただきたいと思います。



【ゴーヤー実りました】 (博愛荘)

今年も博愛ガーデンでひっそりと育てているゴーヤが実り始めています。

小粒で食べるまでにはもう少し時間はかかりますが、成長を楽しみに利用者と職員が毎日見守っています。

夏の収穫後はゴーヤチャンプルーやゴーヤチップスで食べたいと収穫を楽しみにしている職員も数名いて、「ガーデン管理者川戸多喜子総師長」からの収穫許可を心待ちにしています。



【誕生日会】 (博愛荘)

今年も3月誕生日会恒例のコラボレーション企画、〈詩吟master a.k.a吉岡センター長 feat.藤原佑子前園長〉による詩吟ライブが開催されました。

吉岡門下生による詩吟披露もあり、日頃の成果が存分に発揮されていました。

また、詩吟に合せた空手演舞の披露に、利用者・職員から「迫力があつた。」「かっこよかった。」との感想が聞かれました。

藤原佑子園長は前年度でご退任され、今回が最後の協力参加となりました。これまで博愛荘の運営にご協力くださり本当にありがとうございました。



【山形花笠】 (ショートステイやはば)

ショートステイやはばの職員に、山形県出身の菊地久美さんがいます。小さい頃から花笠音頭を踊り育ちました。笠は、自分で用意して踊り方を他の職員に教えながら、時々利用者の前で披露しています。

「ハ ャッショ マカシヨ シャンシャンシャン」

利用者は、なかなか間近で見ることのない踊りを楽しそうに見ていました。また、一緒に手踊りや掛け声をする利用者もいて盛り上がりました。

これからも定期的に利用者の前で披露出来る様に、踊れる職員を増やしていきたいと思います。皆さんも踊ってみませんか？踊ってみたい方は、ぜひ私達と一緒にやりましょう!!



【新型コロナウイルス対策】 (デイケア)



利用者全員に手作りマスクを配布しました。

皆様に安心して利用いただくために、職員全員で分担して手作りマスクを作成しました。

ご利用されている方々の事を考えながら愛情を込めました♡♡♡

「ありがと〜!!」と、笑顔でお話して下さる皆様の気持ちが嬉しかったです。

感染症対策として、マスク着用をお願いをしていますので、ぜひデイケアマスクをご活用していただきたいと思います。

大変な状況の中で、遠方に居て会えないご家族を心配する声も聞かれています。感染症対策をしながら、一緒に通う仲間や職員に心配な気持ちや不安な気持ちをお話して、心も身体も健康でいられるようリハビリも頑張りましょう!



【6月誕生会】 (敬寿荘)

6月28日(日)、6月誕生会4名の合同誕生会を開催しました。

普段の誕生会は敬寿荘内で行っていましたが、コロナウイルスの影響により外出の機会がほとんどない為、気分を変えて屋上と5F南昌ホールで開催しました。

雨の日が続いていましたが、当日は過ごし易い天気、皆さん気分転換できた様子。屋上では職員手作りの色紙を誕生者へプレゼントし、皆で写真撮影。その後5Fへ移動し、お弁当を食べ、カラオケをしたり、職員のギター演奏などでお祝いしました。

コロナウイルス終息の見通しが立たない状況ですが、今後も健康に過ごしていける様、体を動かす機会を作って参ります。



【おにぎりパーティー】 (こずかたこども園)

4・5歳児がお米の稲を植えました。苗が大きくなる事に期待しつつ、おにぎりパーティーをしました。

お米を研いだり、水を目盛りまで入れたり、炊き上がる前に野菜のお世話をしていると…いよいよ美味しい香りが!!

リクエストふりかけをまぶしてラップで丸めました。

いろいろなふりかけを準備していたので、カラフルなおにぎりができました。

自分で丸めたおにぎりは格別だったようで、たくさんおかわりをしてたべました。



【クッキーづくり】 (こずかたこども園)

おにぎりパーティーが楽しかったので、第2弾としてクッキー作りに挑戦しました!

ホットケーキミックスとバター、トッピングにはゴマや青のりなどを入れて型抜きをしてホットプレートで焼きました。

園内中が甘い香りいっぱいになり、小さいお友達もちょっと覗いてみたり…しっとり甘いクッキーができました。

次は何を作ってみようかな? 子どもたちと相談しているところです。



【オンライン面会を開始】 (ケアセンター南昌)

「☆□△※! ? お母さんっかっ! ?」

オンライン面会実施の第一号であるS・Tさんはタブレットに映し出された家族の顔を見て、驚きながらも顔がほころんでいました。

令和2年1月からの、インフルエンザ感染対策全館面会制限に始まり、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う厚生労働省基本方針で原則面会禁止通達がありました。

その後、緊急事態宣言解除となった5月から、当センターでは「オンライン面会 (※1)」を開始しました。上記はその一場面でしたが、家族との面会をいかに心待ちにしていたかが伝わってきました。

(※1) オンライン面会とは

パソコンやスマートフォン、タブレット端末でインターネット等を通してテレビ電話をする仕組みの通称です。

当センターでは、来所していただき1階と各階をタブレット端末 (iPad) で接続し、面会をしていただく方法をとっております。

さらに6月には、面会制限が長期に及んでいることから段階的に制限を緩和することとし、一定の条件 (※2) を設けて「対面による面会」を開始しています。

10分ほどの短時間でアクリル板越しではあるものの、タブレットの画面越しでは伝わりきれない細かい表情やお互いの距離感を感じているようでした。

久しぶりの対面で利用者様・ご家族様が喜んでいる様子に、感染症が収束に向かい、通常的面会ができるようになることを強く願うばかりです。

(※2) 一定の条件とは

面会希望者や同居家族の健康チェック、面会場所に条件を設けております。

詳しくはお電話にてお問合せください。



志和荘

施設紹介

特別養護老人ホーム：常に介護が必要で自宅では介護ができない方が対象の施設です。

【お花見弁当】



4月23日(木)、お花見弁当の会を行ないました。色鮮やかなお弁当を食べて、待ちに待った春の訪れを喜び合いました。いつもは3階の地域交流センターに皆で集まり会を開催するのですが、今年のはのんびりと、ユニット毎に楽しみました。

志和荘の大きな山桜はまだ蕾でしたが、艶やかなピンク色のアートフラワーと共に写真を撮った皆さんの笑顔は満開に咲いていました。

【お料理レク】



各ユニットで、お料理レクリエーションが盛んに行われています。その内容は様々で、焼きそば・チャーハン・ハンバーグ・ピザ・鍋料理・豆腐作りなどの食事系の物から、あんみつ・かぼちゃの茶巾しぼり・パフェ・ぼたもちなど多岐に渡ります。入居している方の「〇〇食べたいなあ〜」という声を受けて企画・実施します。やはり自分たちで作った物は格別なようペロリと召し上がります。食が細く心配している方でもこの時ばかりは「あ〜、美味しかった〜♡」と満足そうでした。お次は、何を作りましょうか？



【志和荘家族会杯 輪投げ大会】



6月、輪投げ大会を開催しました。いつもは3階に集まって開催しますが、感染症対策のため3密を避け、数日掛けてユニット毎に行ないました。ユニット毎と言っても盛り上がりはいつも以上！「頑張れ、頑張れ」の応援を受け、選手の方々は高得点目指して輪を投げます。思いがけず高得点を出し大喜びする方、投げて投げて外れてがっかりしている方…。悲喜こもももの中、勝敗は決しました。優勝は『ひまわり町』でした。2位以下の皆さんも来年は優勝目指して頑張ってください。来年はまた皆で3階に集まって開催したいですね。

【ドライブ】



わくわくクラブでドライブに行きました。行先は役場方面やラ・フランス温泉館方面、医大方面などでした。「この辺、覚えたなあ」「懐かしいなあ」と喜んでいました。「は〜、ずいぶん変わったなあ」と驚いている方もいました。久しぶりに外の景色を見て、良い気分転換となりました。



楽しい時間はあっという間に過ぎるもので、志和荘に到着すると「何？もう着いたのっか？」と残念そうにしていました。

【幻の居酒屋 本日開店】



7月13日(月)、ききょう町で『幻の居酒屋』が開店しました。やきとり缶と冷奴をあてに、ビールとカクテルをグイーっと！…どちらもノンアルコールでしたが、気分はすっかりほろ酔いでした。盛り上がってきたところで、忘れちゃいけないのがカラオケ!! “知床岬”や“北空港”、“恋の季節”など、各々十八番を披露し更に盛り上がりました。

またいつか、『幻の居酒屋』に行きたいなー。大将！待ってますよ!!!



悠和荘に春が来ました!さあ散歩に行こう!

春のお食事会では庭に咲いた花々を花瓶に生けて豪華なお弁当を皆で食べて目も舌も楽しみました。

1丁目ユニットのお花見ドライブは晴天に恵まれました。都南公園では満開の桜を車中から眺めることができ、皆さんから喜びの声が上がりました。

5月初旬には悠和荘の庭の桜も満開になり、職員も入居者の皆さんと一緒に散歩を満喫しました。



入居者の命を守る感染症対策は抜かりなく!

非常事態宣言は解除されましたが油断できない状況が続いています。悠和荘では日に2回の施設内消毒や検温などの予防対応に加えて感染症疑い時の対応研修にも取り組んでいます。

7月に入って面会制限が一部解除されました。シールド越しですが、待ちかねていたご家族の面会が相次ぎ、入居者の皆様も安心の笑顔がみられます。



花壇整備・南昌やまゆりの会の皆様に感謝!

晴天に恵まれた5月の土曜日に南昌やまゆりの会の皆様による花壇整備が行われました。チームワークと手ぎわの良さであっという間に花畑の完成です。

毎年、この時期になると何もなかった花壇に一齐にきれいな花々が咲くので入居者の皆様はとても楽しみにしており、散歩に出る機会が増えます。南昌やまゆりの会の皆様、ありがとうございました!



芸術作品?手作りマスクの寄贈に皆様笑顔!

入居者のご家族から手作りマスク、矢巾町社会福祉協議会からは矢巾町民の皆様の手作りマスクを、矢巾町防犯協会ほかの皆様から紙マスクを頂きました。

ひとつひとつ手をかけて頂いた手作りマスクは何よりも心の免疫を強くしてくれると感じています。

全員で大事に使わせていただきます。皆様ありがとうございました。



コロナに負けないぞ!ユニット行事の充実!

感染症対策のため交流会や全体行事も休止されているなか、入居者の皆さんに少しでも元気を出してもらおうと職員が奮闘しています。

ユニット内で楽しめる魚釣りやボーリングなどのゲーム会や楽器を使って歌会やリズム運動などを行うほか、茶巾絞りやケーキやおまんじゅうなど楽しみながら一緒に行うおやつ作りも大人気です!



恒和荘

施設紹介

小規模多機能型居宅介護事業所：小規模な住宅型の施設で、通いのほか、訪問、短期間の宿泊などを組み合わせて食事、入浴などの介護や支援が受けられる施設です。盛岡市在住者が対象です。

七夕飾り

7月7日の七夕に合わせて短冊に利用者と職員が願い事を書きました。短冊の他に折り紙で輪かざりやちょうちんも作り、短冊と一緒に飾りました。自分や家族の健康を願ったものや、短歌や俳句を書いたものまで様々です。全員元気で長生きできますようにと願いを込めて七夕飾りを眺めていました。



お誕生会

4月は2名、5月は1名、6月は2名の方のお祝いをしました。職員から、誕生者の若い頃の話が紹介されると、恥ずかしそうな表情をする利用者も。お祝いの歌を唄い、プレゼント贈呈し、ケーキと一緒に写真を一枚。職員の手作りケーキを食べ、短い時間でしたが楽しい時間が過ぎ、誕生者の笑顔あふれる時間となりました。



レクリエーション

コロナ感染防止のため、バスハイクやお茶会等、外出や各種行事は現在も自粛しています。運動不足となり、気持ちがモヤモヤするため、毎日行っているレクリエーションの時に、気分転換ができて、楽しい時間が過ごせるように様々なレク内容を考え行っています。早く、通常の生活ができるように、そして、秋には紅葉狩りには行ければ良いなあ…という意見も多く聞かれています。コロナが落ち着いたら皆で出かけましょう。



雑巾の贈呈

毎年、「地域のために何かしたい、貢献できることがあれば…」との思いから、利用者と職員でコツコツと雑巾を縫い、今年も山王小学校、城東中学校、山王福祉センターに届けてきました。通常であれば、職員と利用者の代表2名が直接出向いて校長先生に手渡ししていましたが、今年はコロナウイルス感染防止のため、利用者と同行することはできず、職員が代表して行きました。新任の校長先生には当施設のPRも行うことができ、施設に興味を持っていただきました。私達が縫った雑巾は、店頭で売っているような縫い目も綺麗で整ったものではありませんが、それも手作りの良さですよ。温もりが感じられる雑巾になりました。この雑巾贈呈は今後も継続していきたいです。

川柳

コロナ感染防止のため、外出を自粛。楽しみの一つに食べることがありますよね。利用者が詠んだ川柳特集です。

「納豆菌 生命力も アツフする」	「枝豆の インフラポンは ガン予防」	「温泉に お菓子あるのは 血糖値」	「イワシ缶 高血圧の 改善が」	「シメジはね 睡眠の質 上がります」 淑子
------------------------	--------------------------	-------------------------	-----------------------	--------------------------------

運営推進会議

地域密着型サービス事業所は運営推進会議の設置及び開催が義務付けされていますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年4月の運営会議は開催せず書面にて会議資料を構成員に届け、事業所に対する評価、要望及び助言等を受けました。

盛岡市より、6月以降に運営会議を開催する場合は、感染防止対策を徹底した上で通常通り構成員が参集する形式で開催するようにと通知があり、当施設でも感染対策を取り構成員に集まっただき、6月23日に第60回の運営推進会議を開催しました。具体的な感染防止対策として、参加者に対する検温、体調チェック、手指の消毒。全員にマスクを着用していただき会議中も外さないようにしました。また、会議中は常に換気を行い、参加者間の間隔を十分に確保しました。通常であれば会議は1時間以上かかっていましたが、6月は40分程で終了し、可能な限り3密の回避に努めました。

今期から新たに3名の方に構成員として加入していただきました。今後も当施設が提供しているサービス内容等を報告し、助言をいただきながら地域に開かれた施設として、地域の皆様と一緒に歩んでいきたいと思っております。

5月 母の日お祝い会



た。恥ずかしがりながらも「北国の春」など知っている曲が流れると手拍子をしたり口ずさんだりと笑顔のある時間を過ごされました。

今年新型コロナウイルスの関係で外出できず花見も中止になりました。その分楽しんでいただけるようにお花見気分カラオケ大会をしました。通常ですと2ユニットの利用者を1ユニットに集まり行事を行います。今回は各ユニットで密にならないよう、また換気をしっかり行いながらのお祝い会となりました。テーブルにはカーネーションやペゴニアの花を飾り、昼食には職員手作りの料理をお弁当のように折り詰めにし、お花見気分を満喫。午後はおやつを召し上がりながらのカラオケ大会を行いました。



6月 荘内で土いじり



水やりも職員と一緒にこなったりしています。室内でも下肢筋力が落ちないように個別に運動も頑張っております。状況に合わせて、また各利用者様に合わせた形での過ごし方を、提供させていただいております。

6月のとある日、室内でも皆様に楽しんでいただける様にと、野菜と花の苗をプランターに移す作業をホールで行いました。花はピンクと紫のパンジー、野菜はピーマンやパセリ、大葉、ミニトマトを植えました。昔農家だった方やそうでない方も自分の番になると手馴れた手つきで笑顔で作業されていました。7月に入り大葉とパセリは既に食べられる物になり、大葉は梅とあわせませご飯に。パセリは和え物に入れたりし、提供いたしました。新鮮なので、「風味が違う。」とおっしゃる利用者もおられました。まだまだ味わうことができそうです。またトマトやピーマンはもう少しでできるよう。今から収穫が楽しみです。少しづつですが外気浴の機会も増やしておりますし、町内会で植えた花への

7月 七夕会

利用者様と職員と一緒に七夕飾りを作成し、当日の昼食は職員と共に「ちらし寿司」作りをにぎやかに行いました。錦糸卵や桜でんぶ、きゅうりや刻みのりなどトッピングし、色とりどりの「ちらし寿司」が完成いたしました。「あーきれい!」「美味しそう。」と皆様笑顔で召し上がっておられました。午後のおやつも利用者様と共に「クリームあんみつ」作り挑戦。盛り付けから配膳までされる利用者様もおられ、「できること」に「満足」できる。楽しく美味しい七夕会となりました。活動の最後には玄閑に飾られた七夕飾りの前で記念撮影を行いました。短冊には「健康でいたい」「楽しく過ごしたい」など書かれておられました。とても穏やかで笑顔一杯の一日でした。皆様の願いが叶うように我々職員一同願っております。



荘内研修について

外部の研修に参加出来ない状況の中、若園荘は5・6月と荘内研修を行いました。

●5月勉強会では若園荘加藤看護師より「ユマニチュード」について。

※ユマニチュードとは、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいたケア技法です。フランス語で「人間らしさ」を意味する「ユマニチュード」には、「人間らしさを取り戻す」ということも含まれています。

(職員感想) ユマニチュードとは「見る」、「話す」、「触れる」、「立つ」の4つの行動を柱としてケアを行っていくこととなります。利用者との関わりの中で一番大切なのはお互いの関係性にあること。関わり目的だけに視点を置くのではなく前後のアプローチが最も大切だと再確認しました。今日のケアが明日のケアに繋がって行くことを意識し実践していきたいと思っております。(西野)

●6月勉強会では南昌病院 医療安全管理主任専門員吉田師長より「AED」について。

AEDの使い方について南昌病院の医療安全管理主任専門員吉田優師長を迎え、急変対応としての救命処置の基本的知識や技術を教えていただきました。発見者として適切に必要な行動が行えるよう。AEDを使用し、職員同士確認し反復訓練を行いました。最初は戸惑いながらでしたが、後半は大きな声で互いに指示を出し合うことができるようになりました。今後は若園荘各利用者様のアドバンスケアプランニングも理解・共有しながら、急変時の対応を慌てず実施して行けるようにしたいと思っております。また職員からは「このような訓練は定期的に行いたい」という声が聞かれ、吉田師長指導のもと緊張感のある有意義な研修を受けることができました。



若園荘の感染症対策

若園荘の感染症対策はガイドラインに従い、職員のマスク着用、出勤時の検温、手洗い、うがい、手摺りなどの定期的な消毒などを徹底して行っております。家族様と利用者様の面会は現時点で予約にて1階事務所でアクリル板越しでの面会。また状況に応じて1階事務所と2階ユニット間でのオンライン面会が出来る様になっております。

面会規制中は家族様には大変ご心配とご不便をお掛けしました。今後も感染状況にて対応は変化すると思われませんが、何卒ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

敬愛荘

施設紹介

介護老人保健施設：病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象の施設です。入所等の相談は気兼ねなく支援相談員までご連絡ください。

夕涼み会



7月8日に夕涼み会が行われました。毎年恒例の行事ではありますが、新型コロナウイルスの影響もあり、小規模での開催となりました。屋台ではカキ氷や焼きそば、ヨーヨー風船などを提供しました。利用者は「美味しい。」とおかわりをしたり、黙々と食べている方も見受けられました。ヨーヨー風船を懐かしそうに遊ばれ、「昔はもう少し小さかったような」と思い出される方もいました。毎年恒例の職員によるさんさ踊りでは、輪踊りの中に入り、思い思いに踊っている方や手踊り、手拍子をして盛り上げてくれる方も大勢見受けられました。スイカ割りでは、力強い方もいたようで、早めにひびが入り仕上げの一割を皆で一生懸命に取り組みました。当日はあいにく小雨模様でしたが、楽しい時間を過ごす事が出来ました。



施設での生活 ～園芸～

今年は家族との面会も難しい状態が続きました。気分転換の散歩、楽しみの提供、屋外に行く理由作りに、6月上旬の気候も暖くなった頃、利用者の皆さんと野菜の苗を植えました。苗の植え方、手入れの仕方、利用者それぞれ違いがあるようでした。土の味見をする方もいて、ハラハラしました。スタッフと一緒に日課に取り組むことで、認知機能の活性化に取り組んでいました。



施設での生活 ～誕生会～



例年であれば、毎月ボランティア様の歌や踊りを楽しみにしている利用者ですが、半年程度は中止になっており、残念がっています。そこでスタッフも試行錯誤して生活を楽しんでもらえるようにイベントを計画しています。今回は誕生会の一風景です。施設内で分散しての開催になっており、利用者同士でお花のプレゼント、調理レクでホットケーキやたこ焼き風のお菓子作りに取り組みました。女性の方は得意そうですが、男性の方も意欲的に参加していました。作る時は見守っていた方も食べる時は勢いよく、美味しく食べていました。



南昌病院の感染制御チーム(ICT)活動紹介

医療安全管理主任専門員（看護師長） 吉田 優

入院中の患者が感染症を発症すると、病状の悪化、入院期間の延長、他の患者への感染伝播など、様々な不利益が起こればなりません。今回紹介する感染制御チームは、院内で起こる様々な感染症から患者・家族・職員の安全を守るために活動を行う医療関連感染症対策の専門チームです。

今回は、ICTの活動の一端を紹介したいと思います。1つ目は、毎週行っているICTミーティングと院内ラウンドです。



(写真1: 院内ラウンドの様子)



(写真2: ICTミーティングの様子)

院内ラウンドを通して、①手指消毒剤や個人防護具が適切に使用されているか？ ②医療廃棄物などが適切に分別されているか？ ③病室やスタッフステーション、洗面所などの環境は適切か？ ④細菌の分離状況に応じた適切な管理ができていないか？ ⑤抗菌薬使用状況や状態はどうか？等のチェックを行いながら、現場からの相談を受けるなどもしています。ラウンド結果については、ミーティングで報告し、チーム全員で情報共有すると共に、問題点はできる限り早急に修正あるいは改善するように努めています(写真2)。中でも、感染対策の基本である手指衛生には、職員一丸となって取り組んでおり、実施回数も確実に増加しています。(図1)



2つ目は、インフルエンザや感染性胃腸炎などの重大な感染症が院内で発生した場合、あるいは特定の感染症が急に増えたような場合は速やかに現場確認を行い、現在の感染対策が適切なのかをチェックし、適宜指導を行い、感染症が拡大しないように努めています。特に、面会制限等では、入院者の方やご家族にはご迷惑やご協力を頂き、改めて感謝申し上げます。お陰様で院内での感染伝播は最小限に留めることができています。

また、細菌検査の結果や抗菌薬の使用状況等をモニタリングし、ラウンドで状況を確認するなど、院内の感染症や感染徴候の早期発見にも努めています。その結果、感染症の原因となる、抗菌薬が効きにくい薬剤耐性菌の検出例も僅かではありますが、減少傾向にあります。(図2、図3)



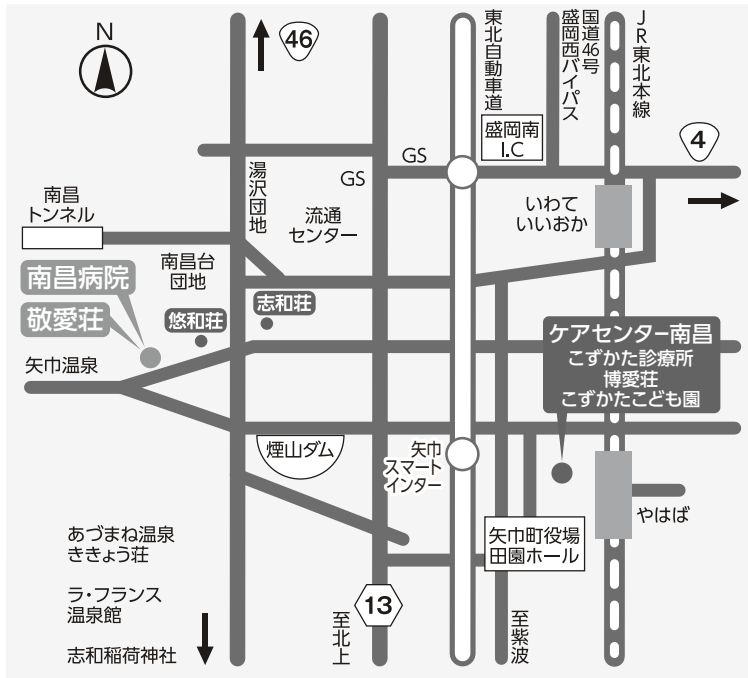
3つ目は、病院職員に対する教育・啓発活動です。全職員を対象とした感染対策に関する研修会を年2回開催しています。取り上げるテーマはインフルエンザや結核など身近な感染症対策について、患者に関わる全ての職員が適切に実行できるよう教育支援をすとともに、病院職員が仕事に感染症にかからないためワクチン接種を勧奨する等して、インフルエンザやB型肝炎のワクチン接種を勧奨する等、職業感染防止対策の啓発活動にも取り組んでいます。

昨年12月に端を発した新型コロナウイルス感染症という未知の感染症が全世界で拡がりをみせており、国内でも7月15日現在23000人弱の方々が感染するという状況にあります。幸いにも本県では感染者は確認されていませんが、対岸の火事ではありません。いつ、何時、未知の感染症が新たに発生する可能性がある中で、今後とも感染対策はより重要性が高まっていくものと考えます。

南昌病院のICTは「患者・家族を感染から守る。」「病院職員を感染から守る。」「より質の高い感染対策を提供する。」ことを目的に、入院中の患者が感染症にかかることなく、安心して疾病の治療やリハビリテーションに専念できるように、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学・作業療法士、栄養士、医事課など多職種のメンバーが、それぞれの専門的知識と経験を持ち寄って日々活動しています。決して大名行列ではありません。院内で見かけた際には、怪訝な視線ではなく、暖かく見守っていただくよう、宜しくお願いします。

文責：医療安全管理主任専門員（看護師長） 吉田 優

矢巾町エリア



盛岡市エリア



南昌病院診療案内

診療時間/9:15~17:00

月	脳神経内科 佐藤 典子	循環器内科 三浦 秀悦
火	内科 小原 進	循環器内科 三浦 秀悦
水	循環器内科 西城 精一	脳神経外科 木戸口 順
木	循環器内科 市川 隆	内科 藤島 行輝
金	脳神経外科 木戸口 順	

こずかた診療所診療案内

診療時間/9:00~17:00 (受付 午前11:30/午後16:30まで)

月~金	内科 杉山 賢明
月~金	内科 坪谷 透
水(午前)	内科 肥田 秀彦
第2火(午前) ※予約制	脳神経内科 石塚 直樹
第4金(午前) ※予約制	脳神経内科 高橋 純子

休診日: 土曜・日曜・祝日

編集後記

◆新型コロナウイルス感染対策により新規陽性者が減少し安堵していたところでしたが、最近は何日に増加しており新規陽性者の方が1000人を超える状況になっています。当法人各施設でも、2月下旬から面会禁止や制限を行い、入院患者さん、入所者さん、ご家族さまにご負担をおかけしております。5月上旬からオンライン面会を開始、6月19日からは一部面会禁止の制限や感染対策を徹底しながら、対面での面会を開始したところでした。少しずつですが、面会の件数も増えて、患者さんや入所者さんご家族の笑顔が増えてきたところでしたので、また制限をかけることにならなければ良いと誰もが思っているところです。県をまたぐ職員の移動についても、制限を設けて対応してきたところです。職員から患者さんや利用者さんに感染させることが無いよう最大限の注意を払ってきたところです。

長引く感染対策ですが、引き続き入院患者さん、入所者さん、そして職員を守るために法人職員が一丸となって取り組んでまいります。

医療法人社団 帰厚堂	■南昌病院	〒028-3621 紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-5211	FAX 019-697-5215
	■介護老人保健施設 敬愛荘	〒028-3621 紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-3288	FAX 019-697-0641
	■小規模多機能型居宅介護事業所 恒和荘	〒020-0805 盛岡市東新庄1丁目7-23	TEL 019-681-4166	FAX 019-604-1120
	■グループホーム 若園荘	〒020-0886 盛岡市若園町8-11	TEL 019-601-5501	FAX 019-604-1660
	■ケアセンター-南昌	〒028-3614 紫波郡矢巾町又兵衛新田5-335	TEL 019-698-2015	FAX 019-611-2071
	◆こずかた診療所		TEL 019-698-3033	FAX //
	○訪問リハビリテーションこずかた		TEL 019-611-1380	FAX //
	◆介護老人保健施設 博愛荘		TEL 019-698-2015	FAX //
	◆博愛荘デイケアセンター		TEL 019-697-1526	FAX //
	◆デイサービスつむぎ		TEL 019-698-2015	FAX //
	◆訪問看護ステーションやはば		TEL 019-698-1388	FAX //
	◆ヘルパーステーションやはば		TEL 019-698-1385	FAX //
	◆訪問入浴介護やはば		TEL 019-698-1385	FAX //
◆ショートステイやはば		TEL 019-698-2015	FAX //	
◆グループホーム 敬愛荘		TEL 019-697-9002	FAX //	
社会福祉法人 敬愛会	▲こずかたこども園		TEL 019-698-3008	FAX 019-611-0221
	▲矢巾町地域包括支援センター		TEL 019-611-2855	FAX 019-611-2937
	●特別養護老人ホーム 志和荘	〒028-3621 紫波郡矢巾町広宮沢1-100	TEL 019-697-6355	FAX 019-697-6356
	●地域密着型介護老人福祉施設 悠和荘	〒028-3621 紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-698-1661	FAX 019-698-1671
	●こずかたケアプランセンター	〒028-3614 紫波郡矢巾町又兵衛新田5-335	TEL 019-613-7603	FAX 019-613-7604
●矢巾町地域包括支援センター	さわやかハウス相談室	〒028-3615 紫波郡矢巾町南矢幅14-78	TEL 019-697-5570	FAX 019-697-5570

※ケアセンター-南昌代表電話